LMS を用いたオンライン入学前教育環境の再構築
―小規模 LMS のオンプレミス環境からクラウド環境への移行―

古賀崇朗*1
Email: d4062@cc.saga-u.ac.jp

*1：佐賀大学教育学部

◎Key Words　　入学前教育，クラウド，学習管理システム

1.　はじめに

佐賀大学では学習管理システム（LMS:Learning Management System）を活用したオンラインでの入学前教育を 10 年以上に渡り実施している(1)。理工学部の入学予定者を対象に開始したこの試みは徐々に広がりを見せ，2023 年度には医学部を除く 5 学部（理工・教育・芸術地域デザイン・農・経済）のおよそ 680 名が受講した。LMS として入学前教育専用の Moodle を設けてはいるが，システムの設置場所は他のテスト用の LMS 等とオンプレミス環境のサーバを共有する形での運用であり，実施環境の面での課題があった。また，それまでは各学部が独自に実施していた入学前教育だが，2024 年度にアドミッションセンターが中心となり，新たに「入学前教育アドミッションセンタープログラム(2)」を開始することになり，それに合わせて LMS もクラウド環境のものへ再構築することとした。本稿では，2024 年度に行った本学におけるオンライン入学前教育環境の再構築について，特に新たな LMS への移行や運用面を中心に述べる。

2.　新システムの導入と再構築

2.1　これまでの課題

入学前教育で使用する LMS は，準備期間を含めると少なくとも 10 月～3 月まで使用し，特に受講期間中はシステムを止め辛く，本来はテスト用のサイトを稼働させているサーバであるのにも関わらず，自由なタイミングでメンテナンスやシステムの更新等が行い辛かった。また，人員も限られる中，管理者はシステムのセキュリティ対策や保守，計画停電等への対応等の業務に時間が取られていた。2023 年度までは入学予定者のメールアドレスの入学前教育での利用登録が任意であったため，LMS のパスワードを忘れた際にメールを介した再設定ができないユーザからの問い合わせが数件あった。運用の面では，利用学部が増えた上に方針ややり取りの流れも各学部で異なり，各学部の教職員とのやり取りが煩雑なことも課題だった。

2.2　新システムの要件

新しいシステムは，管理や運用に係る労力を抑えたいことや準備期間や実施期間を考慮し，システム導入までの時間を短く抑えたいことから，クラウド環境のものとした。検討段階では理工学部の一般選抜合格者を対象とするか不明なことや，利用対象を入学前教育以外にも広げる可能性もあり，利用の規模の拡大や縮小に柔軟に対応できることは必須の要件であった。また，演習問題などの既存コンテンツを円滑に流用したいことから,Moodle ベースのシステムであることを要件とした。さらに，今後も LMS の運用に関わる教職員の増員は見込めないことから，将来的にシステムの運用に関する知識や経験の浅い担当者が運用することになっても維持できるように，LMS の設定や運用におけるサポートを受けることができることも要件とした。

他にも，学習者を登録し，実際に入学前教育を実施する本番環境だけでなく，機能やコンテンツのテスト，不要なデータの整理を行うためのテスト環境も必須なものであった。これらの要件を満たす LMS を導入し，「入学前学習支援クラウド」として運用を開始した。新しく構築した LMS のトップページを図 1 に示す。

2.3　新システムの導入から実施まで

新システムの導入後，まずはテスト環境の初期設定と必要なユーザの登録を行った。次に 2023 年度のコースバックアップの中から 2024 年度も利用するコースのリストアをテスト環境に行った。さらに，新規で開設するコースも作成し，コンテンツの動作確認を行った。並行し本番サイトの初期設定と関係教職員のユーザ登録も行い，テスト環境で動作の確

図 1 「入学前学習支援クラウド」トップページ

認やデータ整理を行ったコースから本番サイトへ移行を行い，受講者のユーザ登録を行い 2024 年度の入学前教育プログラムを開講した。

運用面でも各学部とのやり取りをアドミッションセンターが取りまとめることで，煩雑だった各学部の教職員との直接のやり取りは減らすことができた。また，メールアドレスの入学前教育への利用許諾を得られたため，LMS のパスワードを忘れた際のメールを介した再設定が全ユーザで使用できる環境になったため，問い合わせに対応する時間は削減できた。

3. コース構成とコンテンツ

3.1 コース構成

新システムのカテゴリやコースの構成を表 1 に示す。2024 年度（2025 年度の入学予定者）の受講者は医学部看護科の推薦選抜合格者も加わり合計で 711 名（重複を含まず）となった。コースカテゴリの構成としては，入学予定年度（表 1 では省略），学部，入試区分で構成している。その中で，コースはコンテンツの区分ごとに分けている。2023 年度までと同じく演習問題に取り組むコースに加え，新しい入学前教育の目玉として，学習意欲の維持向上や不安の解消を目指す「入学前教育アドミッションセンタープログラム（以降，「Basic プログラム」と記す。）を開設した。さらに，Basic プログラム受講者を対象に，教養教育科目の「STEAM 学習基礎」を先行履修できるコース（Advance プログラム）も提供した。

3.2 コンテンツ

演習問題は，理工学部は学部の教員が作成した教材を利用し，それ以外の学部では，本学も幹事校として加盟する大学 e ラーニング協議会が加盟校向けに有償で提供する「共通基盤教材[3]」の Moodle 版（表中では，「(8 大)」と記す。）を利用している。

4. おわりに

本稿では，本学が 2024 年度に取り組んだオンライン入学前教育環境の再構築について述べた。クラウド上に新システムを構築し，運用面でもアドミッションセンターを中心に新しい学習プログラムと実施体制が構築され，従来の課題も多く解決された。2024 年度は新システムの構築や移行，新プログラムのコース作成に追われ，新しい試みを行う余裕が無かったが，今後は新たな機能の利用なども検討していきたい。最後に，本学における入学前教育の実施に携わったすべての関係者に感謝の意を示す。

参考文献

(1) 古賀 崇朗，坊野 紗矢香，福崎 優子，米満 潔：LMS を用いたオンライン入学前教育の試み，日本リメディアル教育学会第 14 回九州・沖縄支部会 発表予稿集，サンメッセ鳥栖，pp.23-24（2022）.

(2) 佐賀大学入学前教育アドミッションセンタープログラム：https://www.sao.saga-u.ac.jp/admission_center/ouensite/exam-data/pdf/admissioncenterprogram.pdf（2025/06/28 アクセス）

(3) 共通基盤教育とは - University e-Learning Association：https://uela.jp/system/（2025/16/18 アクセス）

表 1 コース一覧

コースカテゴリ	コース（選抜区分等）	受講者数	コンテンツ
芸術地池デザイン学部	総合型選抜 I	31	(8 大)非言語 SPI，日本語，英語
	学校推薦型選抜 I	なし	(8 大)非言語 SPI，日本語，英語
教育学部	総合型選抜 I（体育分野）	3	(8 大)非言語 SPI，日本語，英語
	総合型選抜 I（数学分野）	1	(8 大)高校 3 年数学
	総合型選抜 I（音楽分野）	5	(8 大)日本語，SPI
	学校推薦型選抜 I（小中連携）	8	(8 大)高校数学，英語
	総合型選抜 I（英語分野）	2	
	総合型選抜 I（技術分野）	2	Basic プログラム
	学校推薦型選抜 I_幼小連携	5	
理工学部	学校推薦型選抜 I /総合型選抜 I /帰国生徒	52	高校数学(学部オリジナル) Basic プログラム
	総合型選抜 II	65	高校数学(学部オリジナル)
	前期日程（私費留学生含む）	317	高校数学(学部オリジナル)
	後期日程	122	高校数学(学部オリジナル)
	高校教員確認用	10	高校数学(学部オリジナル)
農学部	学校推薦型選抜 I（生物科学コース）	3	(8 大)高校数学， 【英語】基礎がためリスニング
	学校推薦型選抜 I（食資源環境科学コース）	2	(8 大)高校 3 年数学
	学校推薦型選抜 I（生命機能科学コース）	1	(8 大)高校数学， 【英語】基礎がためリスニング
経済学部	学校推薦型選抜 I	72	Basic プログラム
医学部	学校推薦型選抜 I（看護科）	20	Basic プログラム
教養教育	STEAM 学習基礎 （Basic 受講者内希望者のみ）	52	Advance プログラム